

奈良文化女子短期大学 幼小連携ワーキンググループ合同研究会
第33回 議事録

1. 日 時： 平成24年2月18日（土） 11:00～13:15
2. 場 所： 奈良文化女子短期大学 本館 5階（第1演習室）
3. 参加者： 19名
4. 内 容：

(1) はじめに

参加者 自己紹介

- 新規参加者：白井久美（伊丹市教育委員会）
川端春美（つばな保育園）
西村美保（新町保育園）
保坂 貢（東京教育研究所）
吉田潤平（東京教育研究所）

学生参加者 1回生：橋本彩香 金本陽子 小澤有沙

(2) 幼小連携資料及び実践から学ぶ

全国の幼小連携の実践資料等からミニ講演及び情報提供・情報交換

「入学後初めての7つの課題」 奈良文化女子短期大学 善野八千子教授

* 「シリーズ①～⑦」

今回は、育つ環境から自ら創る環境へ「生活上の自立」シリーズ4

前回までの復習

- ・ 小学校第一学年の児童の不適応状況
- ・ 育ちの連続、生きる力の育成
- ・ 新しい学習指導要領のめざすもの
- ・ 保育者及び小学校教諭の学級経営観の違い
- ・ 「焦点化」「視覚化」「共有化」の大切さ
- ・ 幼児教育と小学校教育の違い
- ・ 幼小交流の絵本の読み聞かせの例
- ・ 文字遊びから文字の習得へ

育つ環境から自ら作る環境へ

生活上の自立

- ・ 生活習慣が身に付いているか。小学校で何の生活習慣が必要となるのか。
- ・ 活動の見通しをもって、時間を意識して行動できるようにしていく。
→ 幼小で共有化
- ・ 実践事例「リボンマシーン」「靴箱の工夫」「トイレのスリッパ」「うがい」「手洗い」
- ・ 「入学後子どもが困っていること、戸惑っていること」アンケート調査結果（S市2011）
（生活面・休み時間・給食時間・学習面）
- ・ 援助・支援から指導へ、6つの視点

(3) 接続カリキュラム2月～3月作成版の改訂及び週案作成

◆ 就学前カリキュラム改訂作業のためのフォーマットの提案と活用

◆ 幼小混合グループでのワークショップ

（模造紙に前掲の幼小接続カリキュラム就学前週案フォーマットを貼付し、書き込み。）

「1日入学体験」「遊び・制作活動」「自然」の3グループに分かれて、『就学前第3週』週案

について、活動カテゴリーを軸として、幼小混合の3グループに分かれて協議した。
週案レベルの具体案の検討を重ね、“子どもの姿が見える”カリキュラムの作成をしていった。

＜第一グループ＞「一日入学体験」

- ・小学校の余った机・椅子、教科書等を譲り受けて保育室に置く。ごっこ遊びに発展する。
- ・「ひらがな50音表」の保育室内の掲示。
- ・黒板やホワイトボードの設置をする。
- ・安全ピンでとめる、ゴムを束ねる、ものをたたむ、折る、しぼる等の経験を保育者が意識して経験させる。
- ・できることがいつでも使えるような丁寧な指導を修了式前にする。

＜第二グループ＞「遊び・制作活動」

- ・幼稚園や保育所生活の振り返りの制作
- ・小学校に上がる期待感のある制作物をする（紙でノート・教科書、紙袋でランドセル制作）。
- ・「入学すごろく」制作をし、小学校へ入学の期待感をもたせる。
- ・書く（描く）ものを持つことや書く姿勢に慣れる。
- ・4、5歳になると時間の見通しをもって制作する。活動終了時刻の提示。

＜第三グループ＞「春の自然」

- ・子どもが身の回りの自然に目を向ける。
- ・「春の色見つけ遊び」園児がみつけた色を絵や写真にして園庭の地図や小学校までの通学路コースの地図に貼り付けていく。（黒：ダンゴムシ、黄：たんぽぽ、青：オオイヌノフグリなど）
- ・栽培した植物を小さな花束等にしてリボン結びを付け、交流している小学生にプレゼント。

[参加学生の感想]（一部抜粋）

幼小連携ワーキンググループ合同研究会に参加させていただき、ありがとうございました。

お話を聞き、小学校入学後、環境の変化とともに今まで出来ていたことが出来なくなる子どもがいることがわかりました。子どもが小学校に入学した時に戸惑い、今まで出来ていたのに出来なくなるということを少なくするためには、幼稚園や保育園での生活の中で保育者が「時間に見通しをもって活動する声かけをすること」、「名札を自分で付ける習慣を作る」「スリッパを並べることを子ども自身が気づき、出来るように環境づくりをするなどの配慮をする」ことで様々な生活自立が出来るようになることができました。

また、実際に話し合いに参加させていただき、子どもたちが栽培した花に子ども自身がリボン結び、花束を作り小学校にプレゼントすることで互いの子どもたちが喜びを共有できるとともにそのことを通して小学校と連携がとれるのではないかということを知り、とても素敵だと思いました。

そして、小学校入学への期待を持てるように小学校までの地図を作り、そこで見つけた植物、生物を絵で書き、子ども一人一人が書いた絵を壁画にすることで、大学の「教育制度論」で学んだ、「教育目標（Plan）にある知に対しての実践（Do）に繋がるとともに、保護者にも園で行っていることを知ってもらえるきっかけになる」のではないかと感じました。

3月に行われる幼小連携ワーキンググループ合同研究会にもぜひ参加させていただきたいと思っています。